

上田市文化財調査報告書第102集

市内遺跡

平成18年度市内遺跡発掘調査報告書

2007. 3

上田市

上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第102集

市内遺跡

平成18年度市内遺跡発掘調査報告書

2007.3

上田市

上田市教育委員会

例　言

- 1 本書は、長野県上田市における各種開発事業に伴う平成18年度市内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国庫補助事業として上田市（上田市教育委員会事務局文化振興課文化財保護係）が実施した。
- 3 現地調査は、文化振興課文化財保護係尾見智志・真田地域教育事務所生涯学習係和根崎剛が行った。
- 4 現地調査は、主としてバックホーによるトレンチ調査を行った。バックホーの賃貸借・運転については、和農興・竹内和好が行った。
- 5 本調査に係る資料は、上田市立信濃國分寺資料館に保管してある。
- 6 本調査にあたり、開発施工主・担当課に調査実施に係る調整等、格段のご協力をいただいた。
- 7 本調査に係る事務局の体制は、次のとおりである。

教　育　長	森大和
教　育　次　長	中村明久
文　化　振　興　課　長	岡田洋一（平成18年9月30日まで） 伊藤正巳（平成18年10月1日から）
文　化　財　保　護　係　長	上尾俊彦（平成18年9月30日まで） 小林栄子（平成18年10月1日から）
文　化　財　保　護　係	中沢徳士・尾見智志・小林伝
- 8 本調査に係る作業は次のとおり分担をした。

現　地　調　査	尾見・和根崎
整　理　作　業	尾見・上原祐子・堀内通子
写　　真	尾見・和根崎
本書執筆・編集	尾見

< 目 次 >

(1) 染屋台条里水田跡遺跡 1 (道路建設)	1
(2) 石矢遺跡 (共同住宅建設)	3
(3) 大平遺跡 (共同住宅建設)	5
(4) 上田原遺跡 (宅地造成)	7
(5) 宮原遺跡 1 (店舗建設)	9
(6) 染屋台条里水田跡遺跡 2 (宅地造成)	11
(7) 欠下遺跡 (公共施設建設)	13
(8) 染屋台条里水田跡遺跡 3 (店舗建設)	15
(9) 宮原遺跡 2 (店舗建設)	17
(10) 染屋台条里水田跡遺跡 4 (道路建設)	19
(11) 殿田遺跡 (共同住宅建設)	21
(12) 染屋台条里水田跡遺跡 5 (介護施設建設)	23
(13) 染屋台条里水田跡遺跡 6 (道路建設)	25
出土遺物	27
平成 18 年度試掘調査地点位置図	30
染屋台条里水田跡遺跡における調査状況	33
写真図版	35
報告書抄録	40

(1) 染屋台条里水田跡遺跡 1

- | | |
|---------|-----------------|
| 1 調査地 | 上田市古里字宝来・膳ノ橋 |
| 2 原 因 | 道路建設 |
| 3 調査日 | 平成18年5月16日 |
| 4 調査方法 | 幅約1mのトレンチを4本入れる |
| 5 調査担当者 | 尾見智志 |

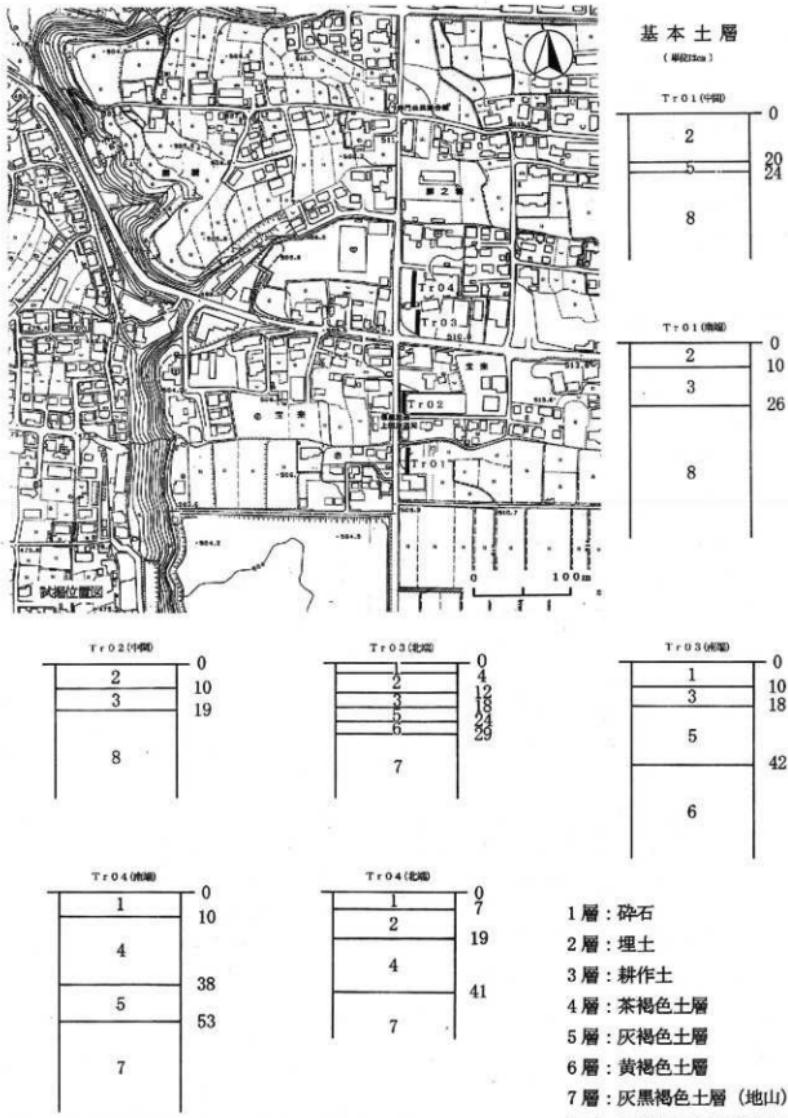
遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部で千曲川と神川によって形成された河岸段丘上に位置する。この台地は、通称染屋台と呼ばれている。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つかの遺跡が試掘調査等によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。

本件については、平成18年5月9日に長野国道事務所から試掘可能箇所についての確認依頼があり、平成18年5月10日に現地確認を行った。統いて、平成18年5月16日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認できなかった。

調査の結果

Tr 01・02・03・04を設定して調査を行った。埋め土の下は水田起源と思われる粘質の灰褐色土層あるいは灰黄褐色土層であった。その下には地山となる灰褐色土層あるいは灰黄褐色土層が確認された。いずれのトレンチからも遺構・遺物等は確認できなかった。



第1図 染屋台条里水田跡遺跡1（道路建設）

(2) 石矢遺跡

1 調査地	上田市殿城字石矢
2 原 因	共同住宅建設
3 調査日	平成18年5月19日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを4本入れる
5 調査担当者	尾見智志・和根崎剛

遺跡の環境と経過

石矢遺跡は、「上田市の原始・古代文化」によると「赤坂集落西部の畑、および宅地内に分布し、遺物が豊富で、この地域を代表する遺跡である。採取された遺物は、縄文中期の初頭型式・勝坂式・加曾利E式などの土器、石礫、打製石斧、磨製石斧、石皿、弥生後期の箱清水式土器、施釉陶器を伴う古墳時代後期から平安時代にわたる土師器などで、遺跡内に赤坂将軍塚古墳がある。」としている。

本件については、平成18年4月28日に開発事業届に係る現地調査を行い、当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。その後、保護協議を経て平成18年5月19日に試掘調査を行ったところ、遺構・遺物が確認された。再度、平成18年5月22日に保護協議を行い、設計変更により遺跡を保護することとした。

調査の結果

T r 0 1・0 2・0 3・0 4を設定して調査を行った。T r 0 1・0 2・0 3では、南側を中心に竪穴住居跡が確認された。トレンチ北側は、削平により遺構は確認できなかった。確認された竪穴住居跡は古墳時代後期のものと思われる。また、縄文時代中期後半の土器片や土偶も確認できた。T r 0 4からは遺構は確認できなかつた。

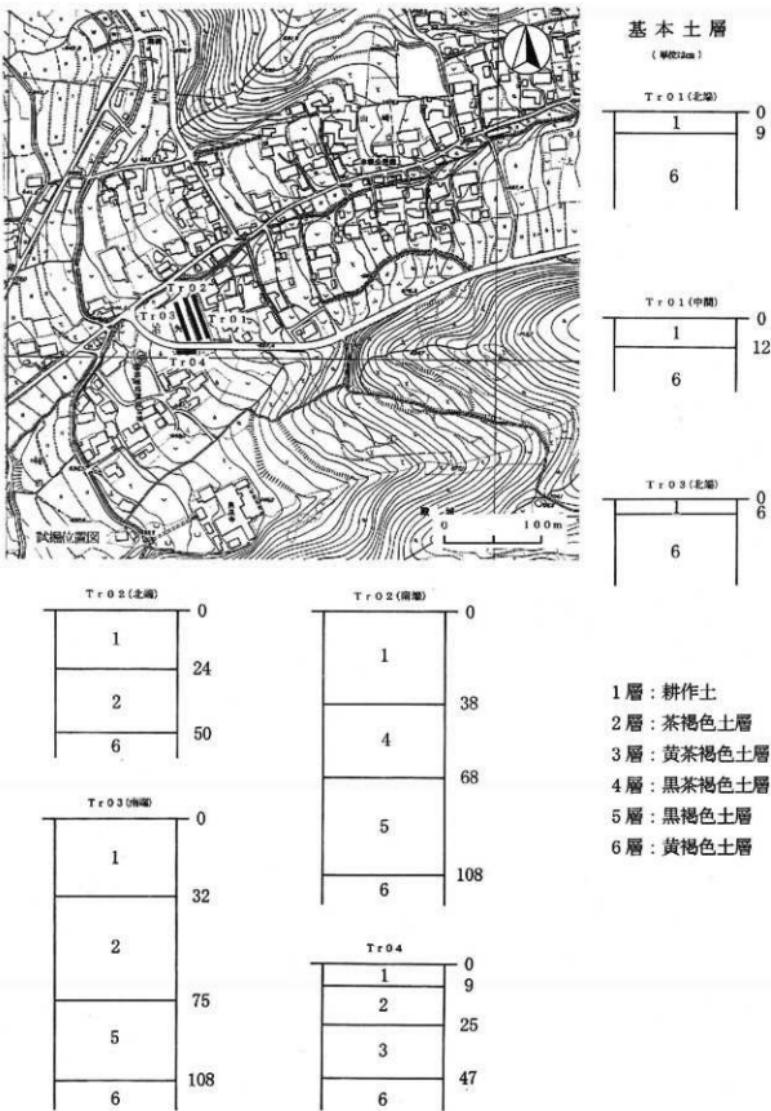
主な出土遺物は次のとおりである。

T r 0 1 (縄文時代の土器片・縄文時代の土偶・砥石・古墳時代の土師器片)

T r 0 2 (縄文時代の土器片・打製石斧・古墳時代の土師器片)

T r 0 3 (縄文時代の土器片・打製石斧・古墳時代の土師器片)

T r 0 4 (縄文時代の土器片・古墳時代の土師器片)



第2図 石矢遺跡（共同住宅建設）

(3) 大平遺跡

1 調査地	上田市武石鳥屋字大平
2 原 因	共同住宅建設
3 調査日	平成18年6月8日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

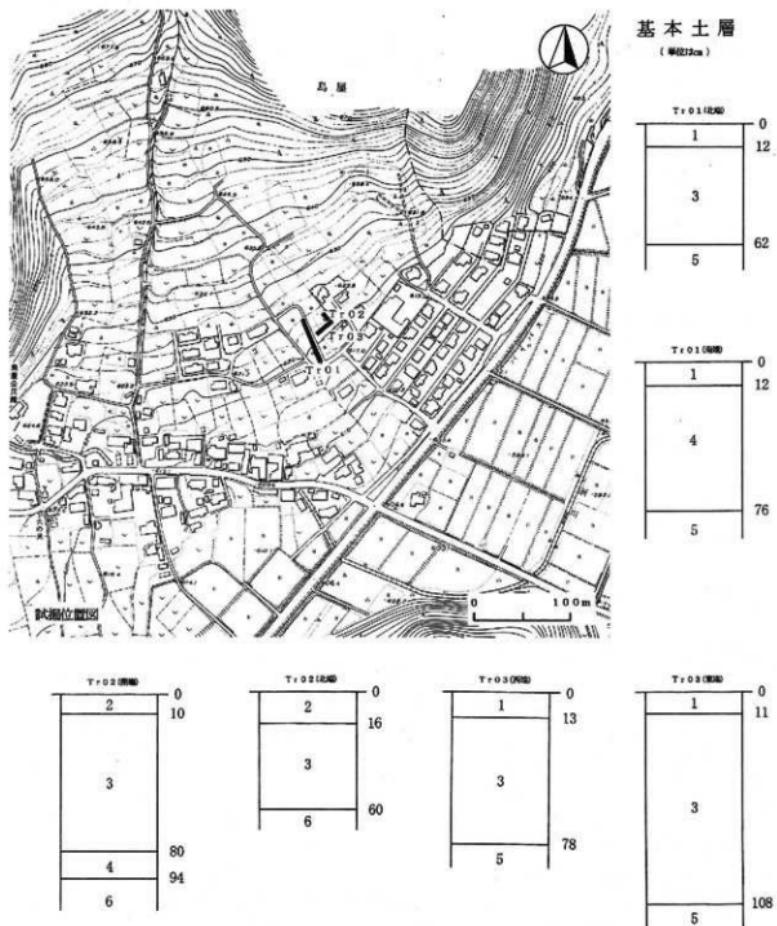
遺跡の環境と経過

大平遺跡は大半が团地となってしまっているが、平安時代の遺跡とされている。武石村誌（平成元年・武石村誌刊行会）によると「薬用人参の天地返しの際に平安時代末と思われる壊の小破片が多量に発見されている」としている。

本件については、平成18年6月1日に現地調査を行い、当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。その後、保護協議を経て、平成18年6月8日に試掘調査を行った。

調査の結果

Tr 01・02・03を設定して調査を行った。表土の下は黒褐色土層で、その下は地山と思われる黄褐色土層であった。どのトレンチからも、遺構・遺物等は確認することができなかった。



- 1層：表土
- 2層：耕作土
- 3層：黒茶褐色土層（シルト質）
- 4層：黒茶褐色土層（黄褐色土を含む）
- 5層：黄褐色土層
- 6層：黄褐色土層（礫を含む）

第3図 大平遺跡（共同住宅建設）

(4) 上田原遺跡

1 調査地	上田市上田原字殿海道
2 原 因	宅地造成
3 調査日	平成18年6月9日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを5本入れる
5 調査担当者	尾見智志・和根崎剛

遺跡の環境と経過

上田原遺跡は、千曲川の第2段丘面で通称上田原台地と呼んでいる台地端部に立地している。上田原遺跡は、多くの小字にわたって立地していることから、上田原遺跡群という名称が適当な遺跡であると思われる。当該遺跡は、縄文時代から中世にわたる遺跡であると思われる。本件の位置は殿海道遺跡の範疇に該当し、「上田市の原始・古代文化」によると、「上田原集落の北方の段丘端の畑地、およそ 25,000 m²にわたって弥生後期の箱清水式土器、後・晚期の土師器が採取される。」としている。

本件については、平成18年6月1日に開発事業届に係る現地調査を行い、当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。その後、保護協議を経て平成18年6月9日に試掘調査を行ったところ、遺構・遺物が確認された。しかし、宅地造成については土盛がほとんどで、地下の遺構に影響を与える場所はなかった。

調査の結果

T r 0 1・0 2・0 3・0 4を設定して調査を行った。T r 0 1では遺構が確認できなかつた。T r 0 2では、柱穴が確認された。T r 0 3では、竪穴住居・土坑が確認された。T r 0 4では竪穴住居が確認された。T r 0 5では土坑が確認された。確認された竪穴住居跡は弥生時代後期のものと思われる。

主な出土遺物は次のとおりである。

T r 0 1 (古墳時代の土師器片)

T r 0 3 (弥生時代後期の土器片・古墳時代の土師器片・砥石・内耳鍋片)

T r 0 4 (弥生時代後期の土器片)

T r 0 5 (弥生時代後期の土器片)



- | | |
|--------|----------------|
| 1層：埋土① | 4層：茶褐色土層 |
| 2層：埋土② | 5層：黒褐色土層（シルト質） |
| 3層：表土 | 6層：黄褐色土層 |

第4図 上田原遺跡（宅地造成）

(5) 宮原遺跡 1

1 調査地	上田市秋和字宮原
2 原 因	店舗建設
3 調査日	平成18年6月23・24・27日
4 調査方法	幅約1mのトレーナーを4本入れる
5 調査担当者	尾見智志

遺跡の環境と経過

宮原遺跡は「上田市の原始・古代文化」によると「上田面の段丘端にあり、およそ10,000m²にわたって、縄文前期の上原式土器・石鏃・打製石斧・弥生後期の箱清水式、後・晩期の土師・須恵器の破片などを出土している。しかし、大部分が工場用地の造成で破壊された。」としている。しかし、1997年の試掘調査において遺跡が残っていることが確認された。さらに、1997年および1998年の宮原遺跡の発掘調査では弥生時代後期を中心とした集落跡が段丘西端部に良好な状態で残っていることが確認された。これらの調査結果から、遺跡は東側にも広がっていることが推定されている。

本件は、平成18年2月24日に業者と試掘に向けた保護協議を行い、建物解体工事との調整を行うこととした。平成18年5月18日に解体工事の進捗状況と試掘位置の協議を行い、平成18年6月23日から試掘を実施したところ、遺構・遺物が確認された。今回の試掘は、解体工事の関係から対象地域の中央付近を調査することができなかつたことから、再度の試掘を実施することを要望して終了とした。

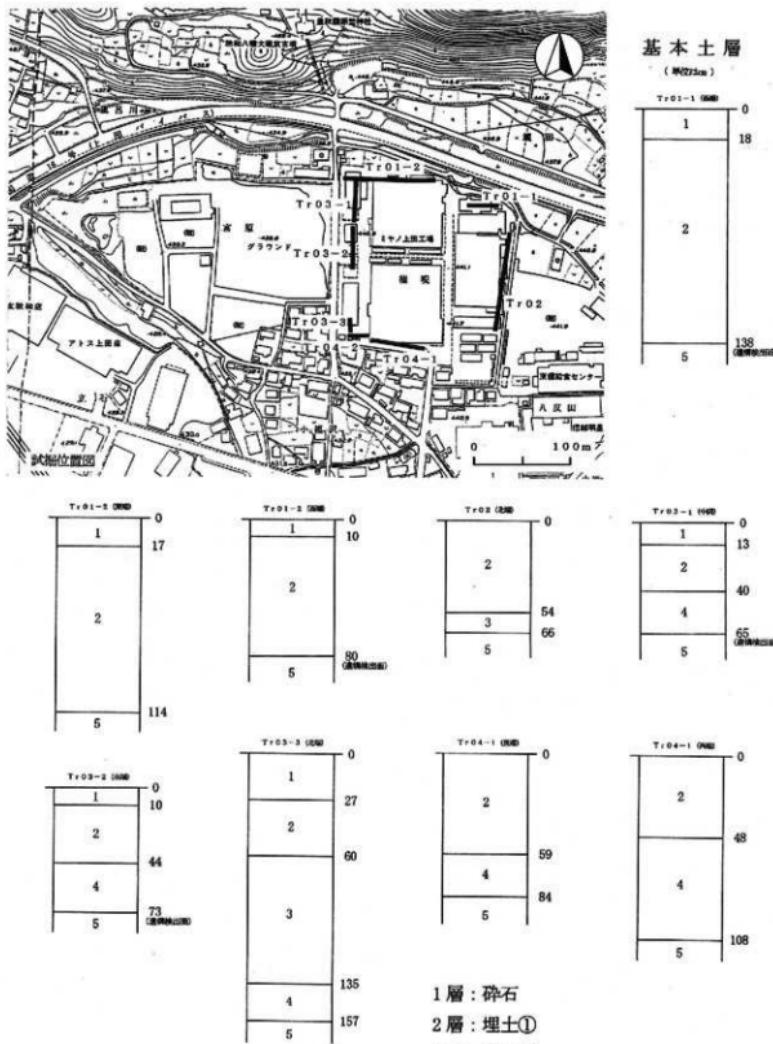
調査の結果

T r 01・02・03・04を設定して調査を行った。T r 01-1では溝跡等の遺構が確認できた。T r 01-2では、北側から土坑および柱穴が確認された。遺構には、土師器の細片が確認された。T r 02でも、北側を中心に土坑および柱穴が確認された。これらの遺構は、①埋土の下の地山層に掘り込まれているものと、②埋土の下に茶褐色土層が存在し、その下層から地山層にかけての地層で確認することができた。T r 03-1およびT r 03-2では、溝跡・土坑および柱穴が確認された。土坑には骨片が認められ、墓坑の可能性のあるものもあった。遺構からは、土師器の高环片・中世の内耳鏡片が確認された。遺構は、埋土の下に茶褐色土層が存在し、その下層から地山層にかけての地層で確認することができた。

主な出土遺物は次のとおりである。

T r 01 (須恵器片)

T r 03 (土師器片・土師質土器片)



第5図 宮原遺跡1（店舗建設）

(6) 染屋台条里水田跡遺跡 2

1 調査地	上田市古里字大畑
2 原因	宅地造成
3 調査日	平成18年6月30日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部で千曲川と神川によって形成された河岸段丘上に位置する。この台地は、通称染屋台と呼ばれている。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つかの遺跡が試掘調査等によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。

本件については平成17年度の「公共事業に係る埋蔵文化財等の保護協議」により、事業が具体化したところで、試掘することとなっていた。平成18年6月23日に開発事業届に係る現地調査を行い、平成18年6月30日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認できなかった。

調査の結果

Tr 01・02・03を設定して調査を行った。表土の下は若干の黒褐色土層が残るが、その下は強粘土の灰褐色土層であった。どのトレンチからも遺構・遺物等は確認することができなかった。



基本土層

(100cm)

	0
1	12
2	36
3	

Tz 0 (北端)

	0
1	18
2	33
3	36
5	

Tz 0 (南端)

	0
1	12
2	36
3	46
5	

Tz 0 (北端)

	0
1	22
5	

Tz 0 (北端)

	0
1	12
2	34
4	40
6	

Tz 0 (南端)

	0
1	15
5	20
6	

Tz 0 (南端)

	0
1	15
2	26
4	30
5	

1層：耕作土

4層：黒褐色土層

2層：茶褐色土層

5層：灰褐色土層

3層：黒茶褐色土層

6層：灰黃褐色土層

第6図 染屋台条里水田跡遺跡2（宅地造成）

(7) 欠下遺跡

1 調査地	上田市別所温泉字欠下
2 原因	公共施設建設
3 調査日	平成18年8月11日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

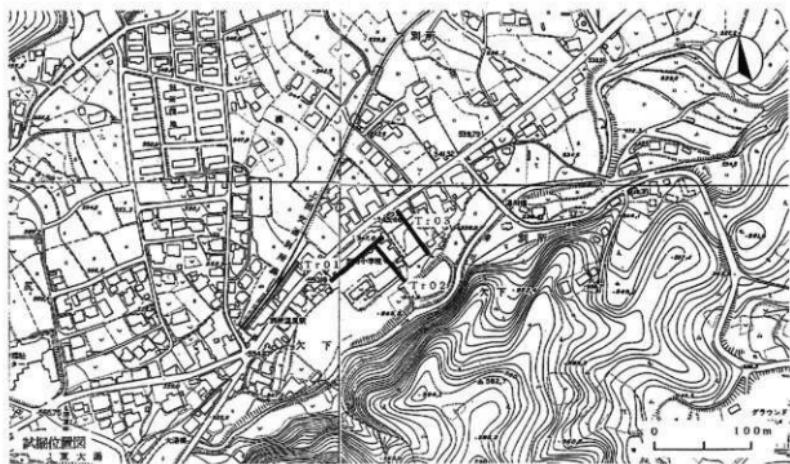
遺跡の環境と経過

欠下遺跡は「上田市の原始・古代文化」によると「別所小学校の敷地から、縄文期の打製石斧が出土している。」としているのみである。そのため、遺跡の実態および範囲が明確でない。

本件は、平成18年6月27日に現地調査を行い当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。その後、平成18年7月12日付で94条の書類が提出された。保護協議を経て平成18年8月11日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査の結果

T r 0 1・0 2・0 3を設定して調査を行った。遺跡は、校舎取り壊しとその後の整地により土層ごと破壊されている恐れもあったが、T r 0 1の東端とT r 0 2・0 3では埋土の下に茶褐色土層が存在し、その下には地山層を確認することができた。しかし、遺構・遺物等は確認することができなかつた。



基本土層

(单位:cm)

T+0.1(切面)	
1	0
22	
2	58
7	

T+0.2(切面)	
1	0
3	12
5	39
6	132

T+0.3(切面)	
1	0
2	48
5	108

T+0.4(切面)	
1	0
2	54
4	102
5	170

T+0.5(切面)	
2	0
5	17
7	67

- 1層：碎石
- 2層：埋土
- 3層：疊層（玉石）
- 4層：灰黒褐色土層
- 5層：茶褐色土層
- 6層：黒褐色土層
- 7層：黄褐色土層

第7図 欠下遺跡（公共施設建設）

(8) 染屋台条里水田跡遺跡3

1 調査地	上田市古里字大畑
2 原 因	店舗建設
3 調査日	平成18年8月18日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部で千曲川と神川によって形成された河岸段丘上に位置する。この台地は、通称染屋台と呼ばれている。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つかの遺跡が試掘調査等によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。

本件については、平成18年8月3日に開発事業届に係る現地調査を行い、当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。その後、保護協議を経て平成18年8月18日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認することはできなかった。

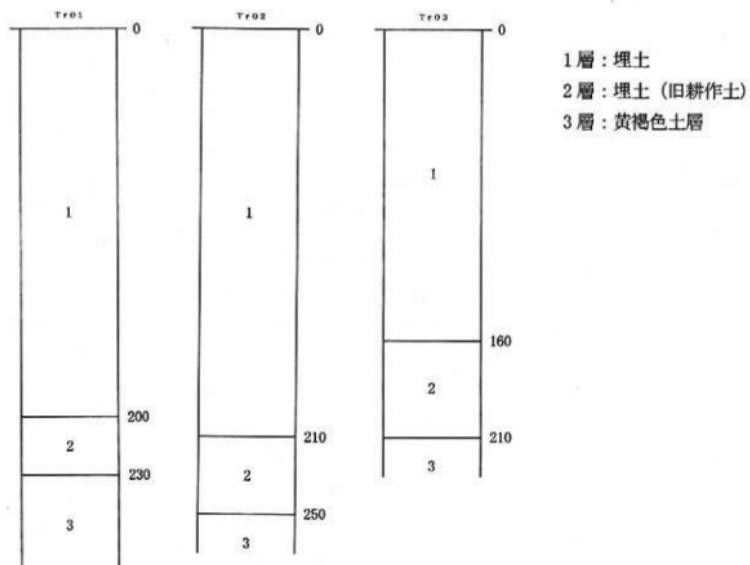
調査の結果

T r 0 1 · 0 2 · 0 3 を設定して調査を行った。厚い埋め土の下は水田起源と思われる粘質の灰褐色土層あるいは灰黄褐色土層であった。その下には地山となる黄褐色土層が確認された。いずれのトレンチからも遺構・遺物等は確認できなかった。



基本土層

(厚さ20cm)



第8図 染屋台条里水田跡遺跡3（店舗建設）

(9) 宮原遺跡2

1 調査地	上田市秋和字権現
2 原因	店舗建設
3 調査日	平成18年11月6・7日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを6本入れる
5 調査担当者	和根崎剛

遺跡の環境と経過

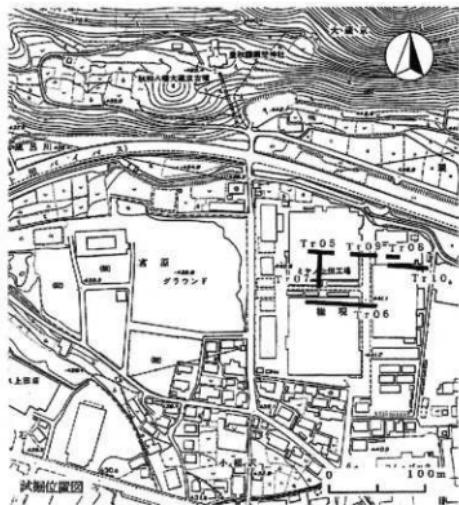
宮原遺跡は「上田市の原始・古代文化」によると「上田面の段丘端にあり、およそ10,000m²にわたって、縄文前期の上原式土器・石鏸・打製石斧・弥生後期の箱清水式、後・晚期の土師・須恵器の破片などを出土している。しかし、大部分が工場用地の造成で破壊された。」としている。しかし、1997年の試掘調査において遺跡が残っていることが確認された。さらに、1997年および1998年の宮原遺跡の発掘調査では、弥生時代後期を中心とした集落跡が段丘西端部に良好な状態で残っていることが確認された。これらの調査結果から、遺跡は東側にも広がっていることが推定されている。

本件は平成18年10月19日に第2回目の試掘の依頼を受けて、平成18年11月6・7日に試掘を実施した。遺構・遺物等は確認することはできなかった。

調査の結果

T r 0 5・0 6・0 7・0 8・0 9・1 0を設定して調査を行った。T r 0 5では一部に竪穴住居の床面と推定できる硬化面を確認したが、ほとんどは地山層まで擾乱を受けていた。T r 0 6・0 7・1 0は、擾乱を受けていた。T r 0 8は埋土の下に灰褐色土層があり、その下は地山であった。T r 0 9では地山層に掘り込まれるように土坑あるいは柱穴を確認した。どのトレンチからも、遺物は確認できなかった。

また、どのトレンチも地山まで掘削が行われており、調査地区内ではほとんどの遺構が失われていると推測される。遺物が全く確認されないことも、この可能性を示唆している。



基本土層
(Soil strata)

Tr 05-1	15	0
2	56	35
3	14	100
3	14	
1	156	

Tr 05-2	0	0
1	18	
2	40	
4	14	93
6	85	

Tr 07-1	0	0
1	9	
2	63	
3	122	
14		

Tr 08	0	0
2	38	
7	56	
3	76	
8	110	
14		

Tr 09-1	0	0
1	8	
2	32	
9	52	
3	65	
14		

Tr 09-2	0	0
1	8	
2	22	
10	34	
3	90 (地盤改良)	
14		

Tr 10-1	0	0
11	63	
12	82	
13	108	
14		

- 1層：碎石
- 2層：埋土①
- 3層：埋土②
- 4層：埋土③
- 5層：茶褐色土層
- 6層：黒色土層（油起因による変色土）
- 7層：黒色土層
- 8層：灰褐色土層
- 9層：砂礫層（灰色を呈する）
- 10層：暗褐色土層
- 11層：埋土④
- 12層：埋土⑤
- 13層：埋土⑥
- 14層：地山

第9図 宮原遺跡2（店舗建設）

(10) 染屋台条里水田跡遺跡4

1 調査地	上田市古里字大畑・堂前
2 原因	道路建設
3 調査日	平成18年11月22・24・27日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを12本入れる
5 調査担当者	和根崎剛

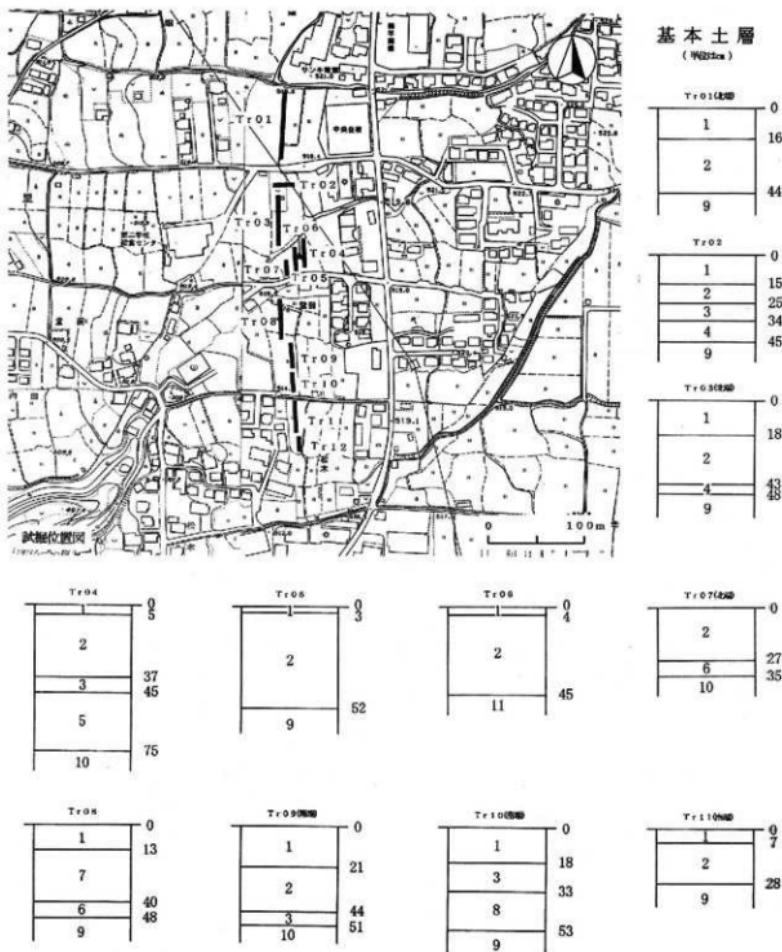
遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部で千曲川と神川によって形成された河岸段丘上に位置する。この台地は、通称染屋台と呼ばれている。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つかの遺跡が試掘調査等によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。

本件については、平成18年11月8日に長野国道事務所から試掘可能箇所についての確認依頼があり、平成18年11月13日に現地確認を行った。統いて、平成18年11月22・24・27日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認できなかった。

調査の結果

Tr 01～12を設定して調査を行った。Tr 01・02では、部分的に粘土層が大きく掘り込まれ埋め戻しのために客土されている部分が見受けられる。これは、染屋焼・瓦等の製作のために粘土を掘り出した跡ではないかと思われる。どのトレンチも、地山まで水田耕作等の手が入っていた。



- 1層：耕作土
- 2層：埋土（茶褐色土）
- 3層：褐灰色土層（灰色土がブロック状に混じる）
- 4層：赤褐色土層
- 5層：黒褐色土層（砂・礫を多く含む）

- 6層：暗褐色土層
- 7層：褐色土層（砂・礫を多く含む）
- 8層：黑灰褐色土層
- 9層：黄褐色土層（地山）
- 10層：黑褐色土層（地山）
- 11層：明黄褐色土層（地山）

第10図 染屋台条里水田跡遺跡4（道路建設）

(11) 殿田遺跡

1 調査地	上田市常磐城字神田町
2 原 因	共同住宅建設
3 調査日	平成18年12月14日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

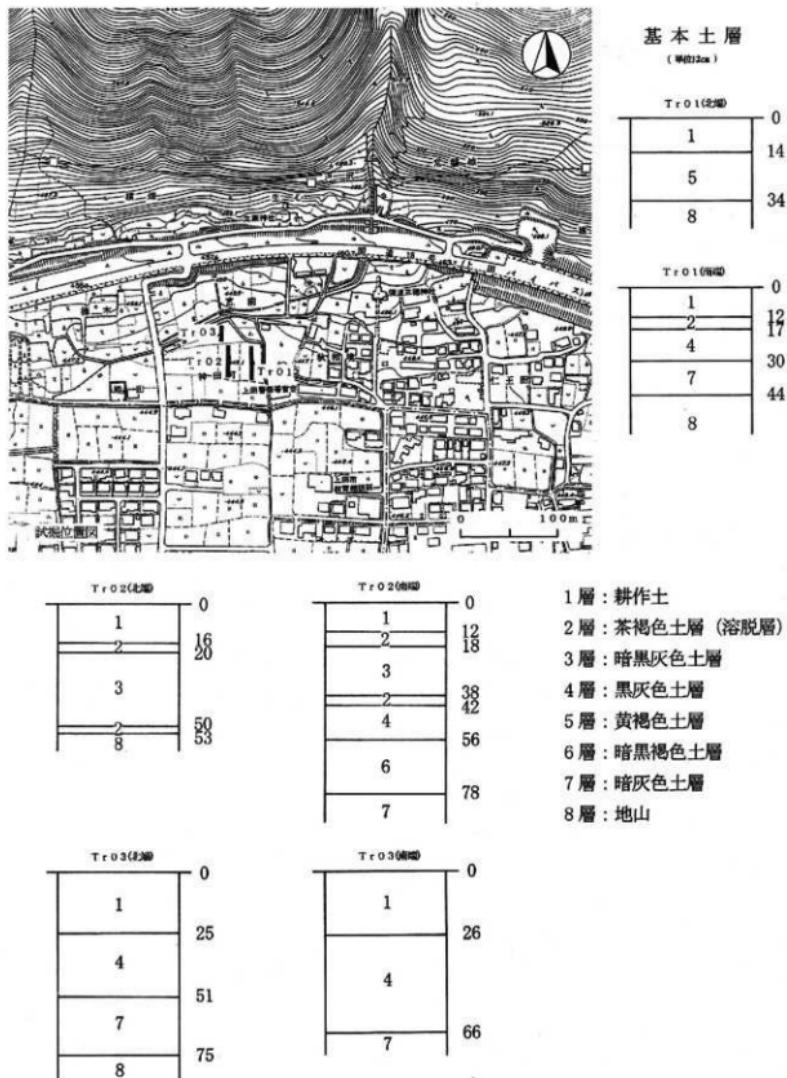
遺跡の環境と経過

殿田遺跡は、1985年の上田バイパス建設工事に伴う発掘調査では平安時代前半の集落が小扇状地の端部に確認された。また、1997年の試掘調査では土師器片や「元祐通宝」と柱穴と思われる遺構が確認されている。

本件は、平成18年11月29日に事業者側から問い合わせがあり、当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。その後、埋蔵文化財の保護協議を行い、試掘調査を行うこととした。試掘調査は、平成18年12月14日に行ったが遺構・遺物等は確認することはできなかった。

調査の結果

Tr 01・02・03を設定して調査を行った。耕作土の下は灰褐色土層あるいは暗黒褐色土層であった。その下には地山となる黄褐色土層が確認された。いずれのトレンチからも遺構・遺物等は確認できなかった。



第11図 殿田遺跡（共同住宅建設）

(12) 染屋台条里水田跡遺跡5

1 調査地	上田市古里字篠ノ井原
2 原 因	介護施設建設
3 調査日	平成19年1月31日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを1本入れる
5 調査担当者	尾見智志

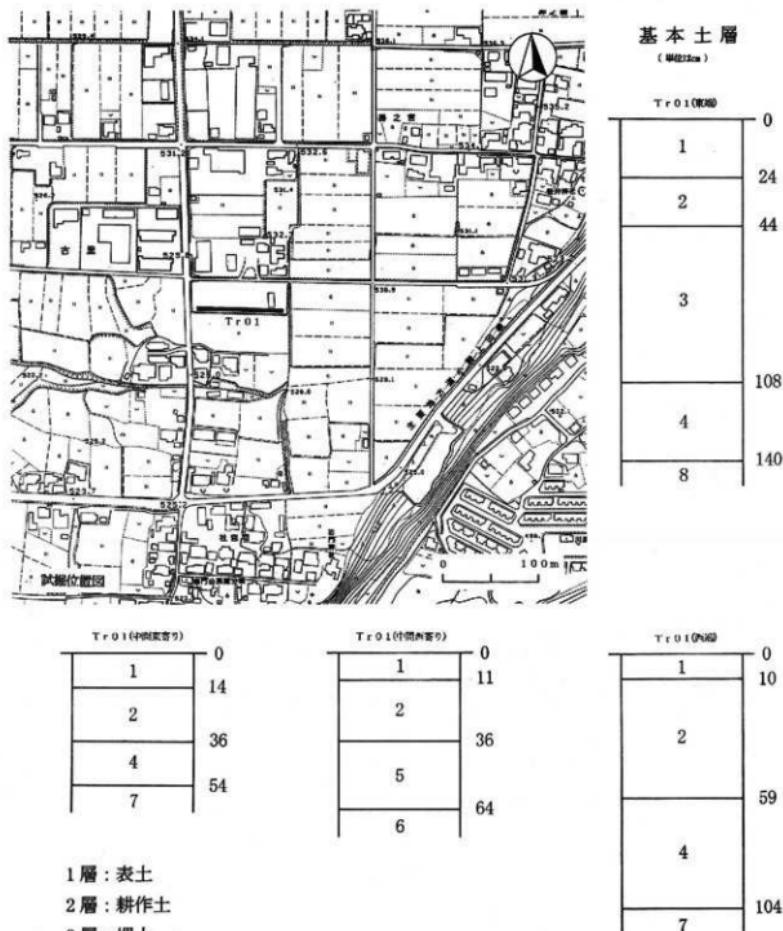
遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部で千曲川と神川によって形成された河岸段丘上に位置する。この台地は、通称染屋台と呼ばれている。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つかの遺跡が試掘調査等によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。

本件については、平成18年11月22日に当該地について埋蔵文化財包蔵地の照会があり、埋蔵文化財包蔵地の範囲であることを伝え保護協議を行った。平成19年1月19日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認できなかった。

調査の結果

T r 0 1 を設定して調査を行った。耕作土の下は灰褐色土層あるいは砂礫層であった。遺構・遺物等は確認できなかった。



- 1層：表土
- 2層：耕作土
- 3層：埋土
- 4層：灰褐色土層（粘性が強い）
- 5層：灰黒褐色土層
- 6層：灰白色土層
- 7層：茶褐色土層
- 8層：砂礫層

第12図 染屋台条里水田跡遺跡5（介護施設建設）

(13) 染屋台条里水田跡遺跡6

1 調査地	上田市古里字勝ノ橋・堂前
2 原 因	道路建設
3 調査日	平成19年2月27・28日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを6本入れる
5 調査担当者	尾見智志

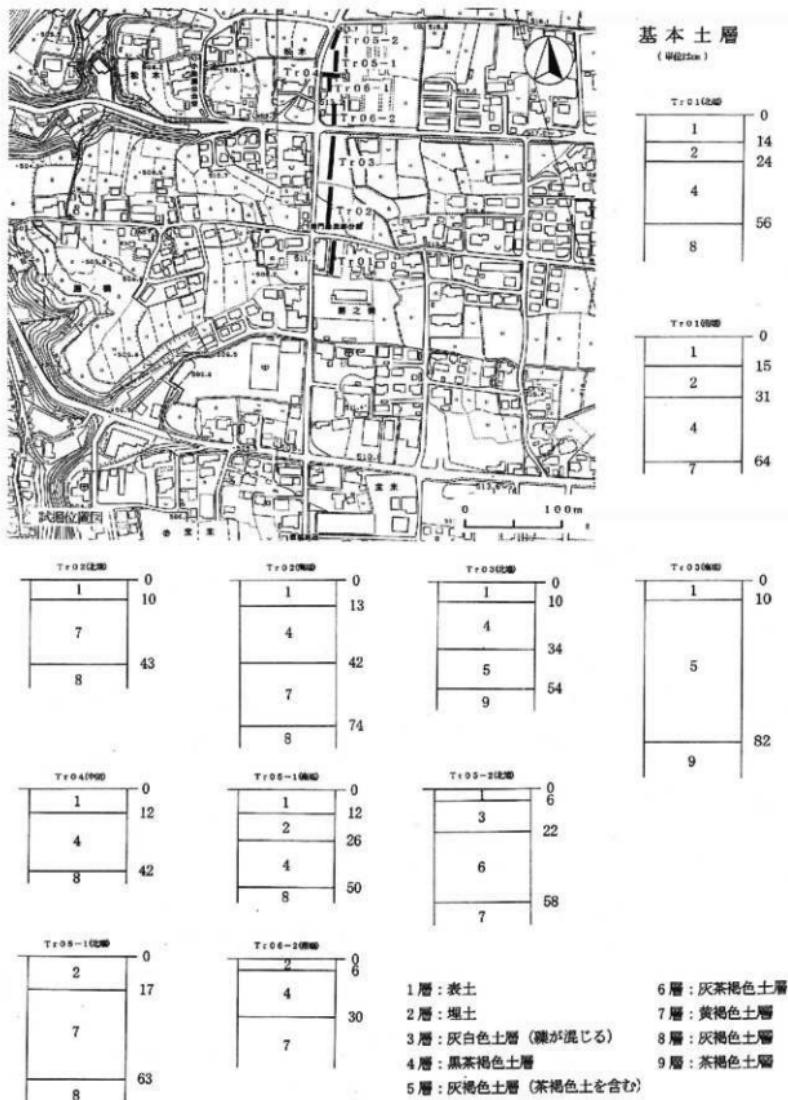
遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部で千曲川と神川によって形成された河岸段丘上に位置する。この台地は、通称染屋台と呼ばれている。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つかの遺跡が試掘調査等によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。

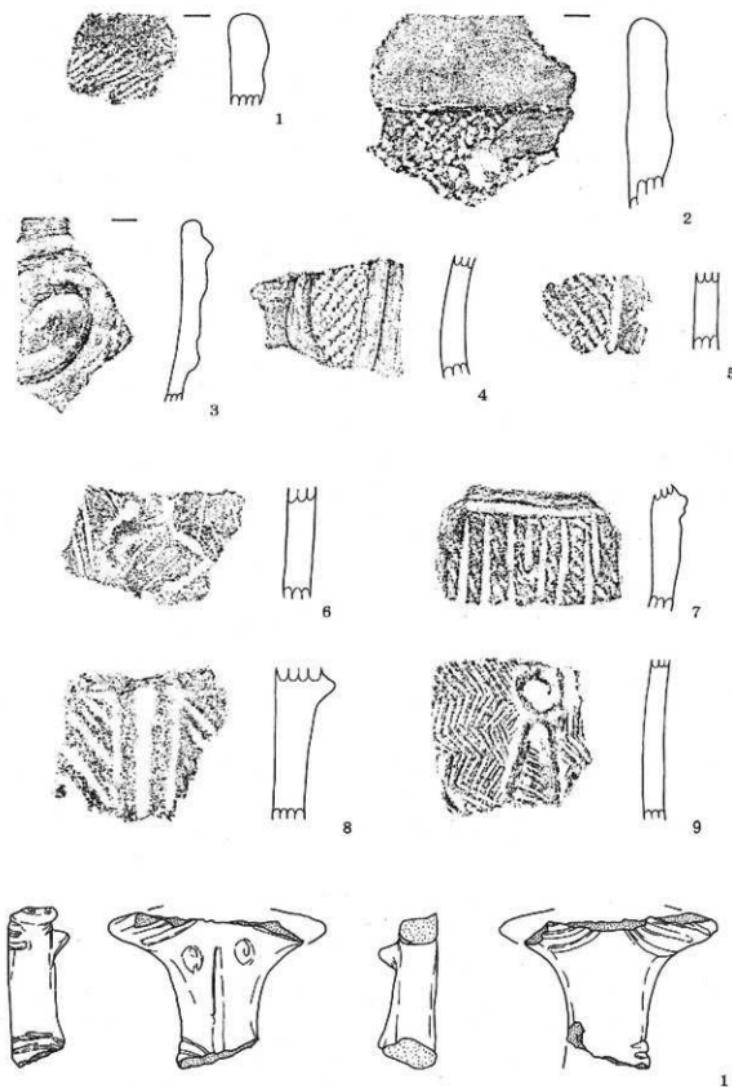
本件については、平成19年2月13日と平成19年2月20日に長野国道事務所と試掘可能箇所についての確認を行った。続いて、平成19年2月27・28日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認できなかった。

調査の結果

Tr 01～06を設定して調査を行った。どのトレンチも、埋土および耕作土の下は灰褐色～黒茶褐色土層が堆積しており、その下は地山であった。遺構・遺物等は確認できなかった。

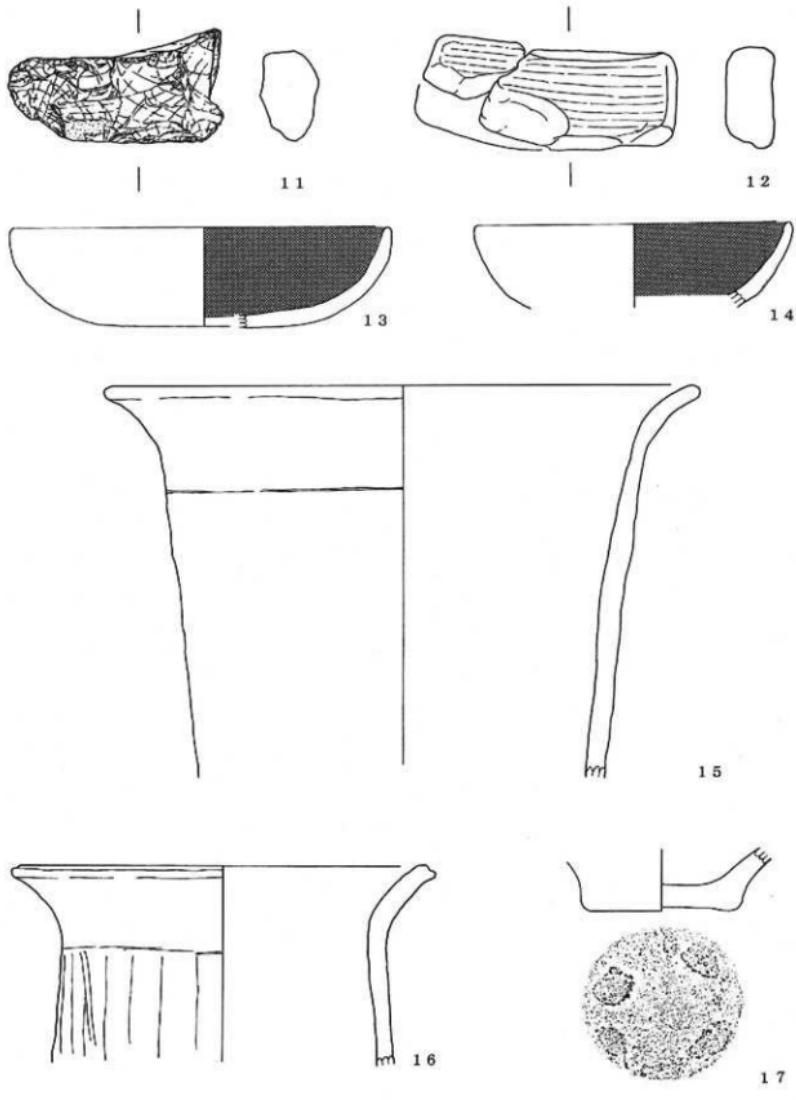


第13図 染屋台条里水田跡遺跡6（道路建設）



第14図 試掘出土遺物① (1~10:石矢)

0 5cm

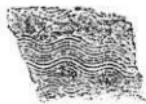


第15図 試掘出土遺物② (11~17:石矢)

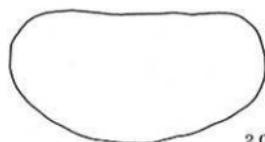
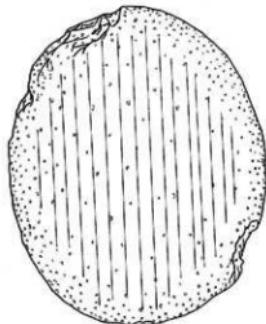
0 5cm



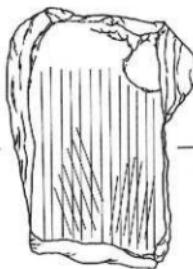
18



19



20



21



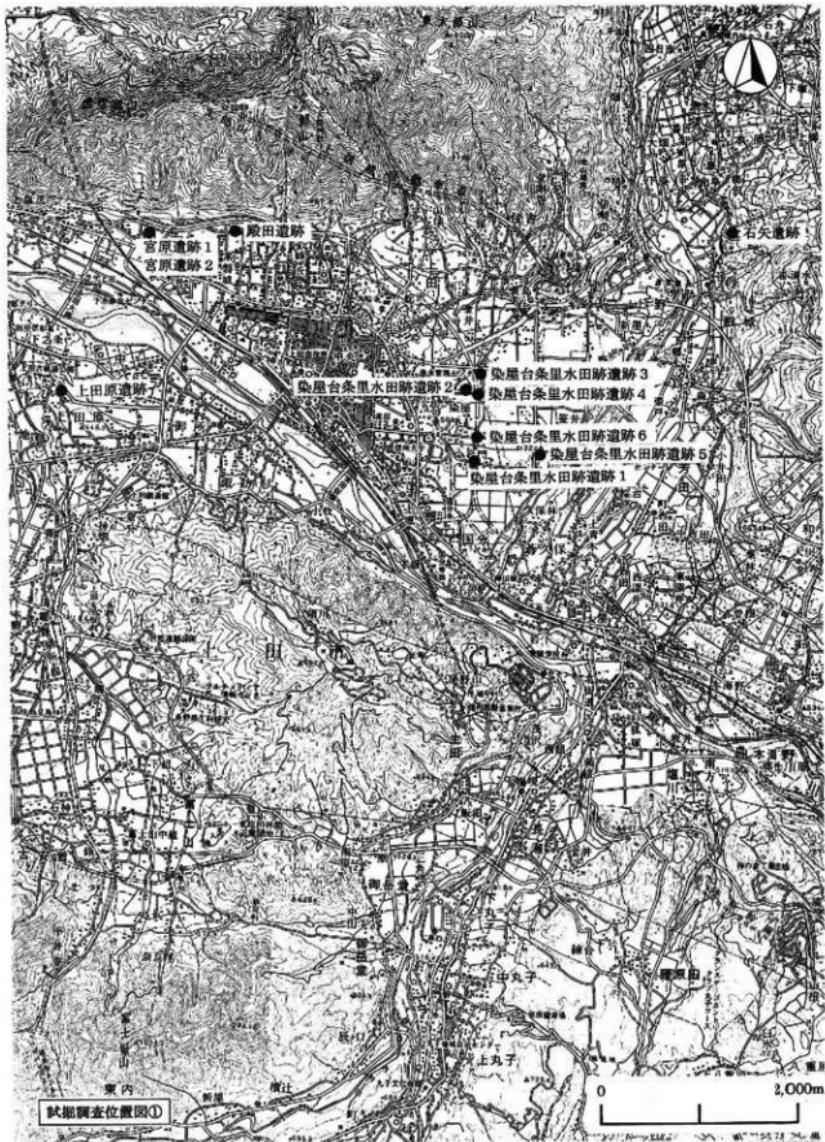
22



23

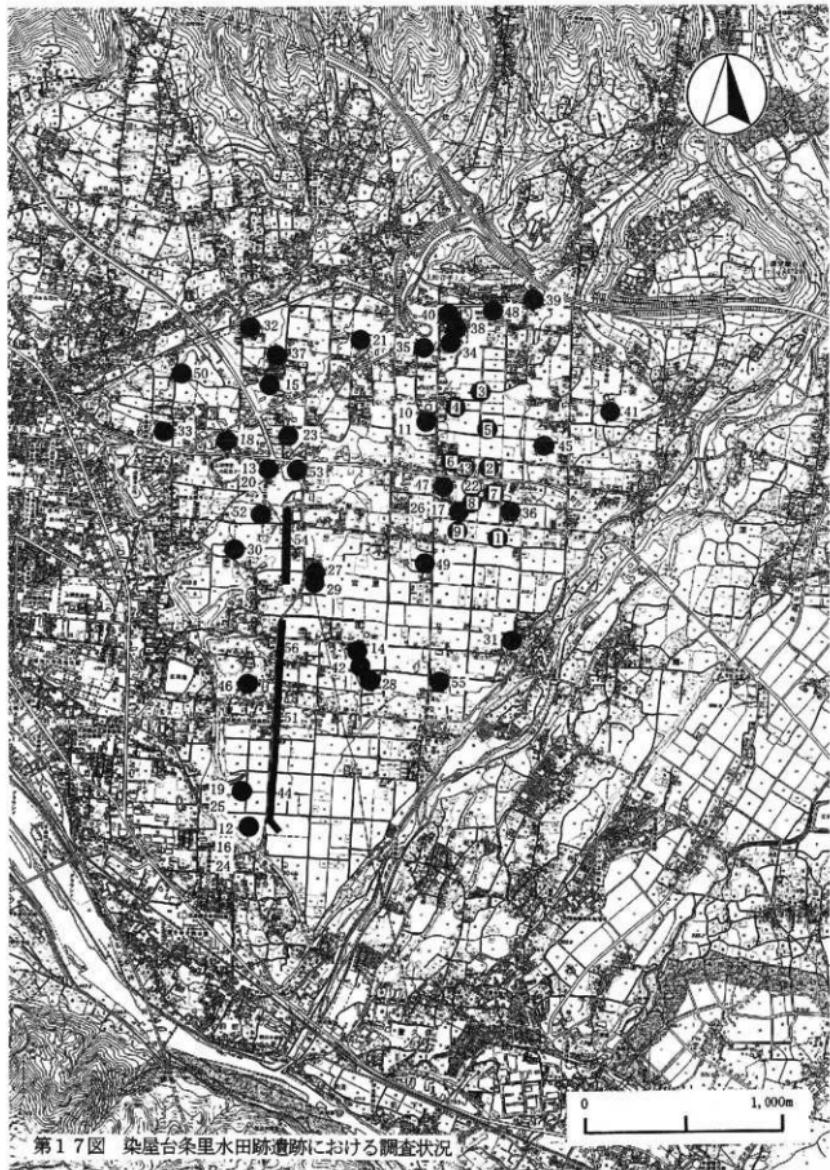
第16図 試掘出土遺物③ (18~22:上田原・23:宮原)











第17図 染屋台条里水田跡遺跡における調査状況

No.	年度	遺跡名	調査結果	備考
1	S58	創地の信濃國府跡推定地確認調査Ⅰ	古墳後期の遺構・遺物	
2	S59	創地の信濃國府跡推定地確認調査Ⅱ	西之手遺跡	
3	S60	創地の信濃國府跡推定地確認調査Ⅲ・A地点	弥生・古墳前期と後期の土器片	
4	S60	創地の信濃國府跡推定地確認調査Ⅲ・B地点	中世前期の陶磁器片	
5	S61	創地の信濃國府跡推定地確認調査IV	なし	
6	S62	創地の信濃國府跡推定地確認調査V・B地点	なし	
7	S62	創地の信濃國府跡推定地確認調査V・D地点	古墳後期の遺物	
8	S62	創地の信濃國府跡推定地確認調査V・E地点	古墳後期の遺構・遺物	
9	S62	創地の信濃國府跡推定地確認調査V・G地点	なし	
10	H2	柳町遺跡	古墳後期の遺構・遺物	
11	H4	柳町遺跡	なし	11と同じ遺跡
12	H6	染屋台条里水田跡遺跡	遺構・遺物等確認	古墳遺跡として調査
13	H7	染屋台条里水田跡遺跡1	遺構・遺物等確認	大畑造跡として調査
14	H7	染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
15	H7	染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
16	H7	染屋台条里水田跡遺跡4	遺構・遺物等確認	古墳遺跡として調査
17	H8	西之手遺跡	遺構・遺物等確認	西之手遺跡として調査
18	H8	染屋台条里水田跡遺跡	なし	
19	H8	上沖遺跡	遺構・遺物等確認	上沖遺跡として調査
20	H8	大畑遺跡	中世前期の遺構・遺物	12と同じ遺跡
21	H9	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
22	H9	染屋台条里水田跡遺跡	遺構・遺物等確認	西之手遺跡
23	H9	染屋台条里水田跡遺跡II	なし	
24	H9	古坂遺跡	平安後期の遺構・遺物	12・16と同じ遺跡
25	H10	上沖遺跡	平安後期・中世の遺構・遺物	19と同じ遺跡
26	H11	西之手遺跡	古墳中期～後期の遺構・遺物	17・22と同じ遺跡
27	H11	染屋台条里水田跡遺跡	なし	
28	H12	染屋台条里水田跡遺跡(1)	なし	
29	H12	染屋台条里水田跡遺跡(2)	なし	
30	H12	染屋台条里水田跡遺跡(3)	なし	
31	H13	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
32	H13	染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
33	H14	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
34	H14	染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
35	H14	染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
36	H14	染屋台条里水田跡遺跡4	なし	
37	H14	染屋台条里水田跡遺跡5	なし	
38	H15	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
39	H15	染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
40	H15	染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
41	H16	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
42	H16	染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
43	H17	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
44	H17	染屋台条里水田跡遺跡2	弥生後期・古墳後期の土器片	
45	H17	染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
46	H17	染屋台条里水田跡遺跡4	土師器片	
47	H17	西之手遺跡	古墳時代の土師器	
48	H17	染屋台条里水田跡遺跡5	なし	
49	H17	染屋台条里水田跡遺跡6	なし	
50	H17	染屋台条里水田跡遺跡7	なし	
51	H18	染屋台条里水田跡遺跡1	なし	
52	H18	染屋台条里水田跡遺跡2	なし	
53	H18	染屋台条里水田跡遺跡3	なし	
54	H18	染屋台条里水田跡遺跡4	なし	
55	H18	染屋台条里水田跡遺跡5	なし	
56	H18	染屋台条里水田跡遺跡6	なし	

表1 染屋台条里水田跡遺跡における調査状況

(※ 図表は、調査報告書等により確認できる調査について記載した。また、参考にした報告書名の記載は省略した。)



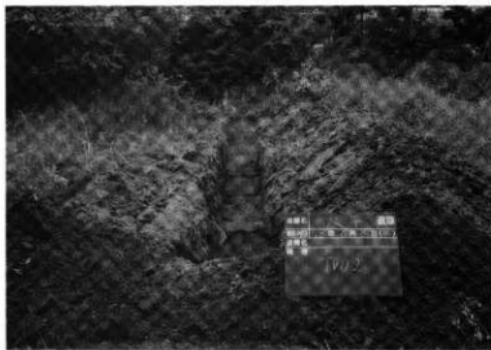
染屋台条里水田跡遺跡 1



石矢遺跡①



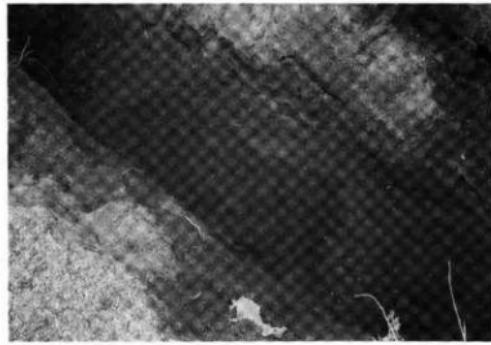
石矢遺跡② (Tr03 遺構検出状況)



大平遺跡



上田原遺跡①



上田原遺跡②（遺構検出状況）



宮原遺跡 1



染屋台条里水田跡遺跡 2



欠下遺跡



染屋台条里水田跡遺跡 3



宮原遺跡 2



染屋台条里水田跡遺跡 4



殿田遺跡



染屋台条里水田跡遺跡 5



染屋台条里水田跡遺跡 6

調査報告書抄録

書名	市内遺跡			
副書名	平成18年度市内遺跡発掘調査報告書			
シリーズ名	上田市文化財調査報告書	シリーズ番号	第102集	
編著者名	尾見智志			
編集機関	上田市教育委員会			
所在地	〒386-0025 長野県上田市天神二丁目4番55号	TEL	0268(23)6361	
発行年月日	2007年3月24日			
所収遺跡名	コード		調査原因	
	市町村	遺跡番号		
染屋台条里水田跡遺跡1	20203	52	2,574	道路建設
石矢遺跡		2	2,323	共同住宅建設
大平遺跡		6(旧武石)	1,537	共同住宅建設
上田原遺跡		110	4,192	宅地造成
宮原遺跡1		76	32,776	店舗建設
染屋台条里水田跡遺跡2		52	4,204	宅地造成
欠下遺跡		301	13,740	公共施設建設
染屋台条里水田跡遺跡3		52	12,748	店舗建設
宮原遺跡2		76	4,000	店舗建設
染屋台条里水田跡遺跡4		52	12,892	道路建設
殿田遺跡		68	2,710	共同住宅建設
染屋台条里水田跡遺跡5		52	2,915	介護施設建設
染屋台条里水田跡遺跡6		52	3,570	道路建設

上田市文化財報告書 第102集

市内遺跡

平成18年度市内遺跡発掘調査報告書

発行 平成19年3月24日
発行者 上田市
上田市教育委員会
印刷 一喜堂印刷
